

演題

開業 50 年を振り返って

抄録

1967 年九州歯科大学を卒業して翌年開業、現在 78 歳になり、昨年 8 月に健康上の理由で閉院いたしました。時の流れは速いものです。正確には 51 年間の開業ですが、福岡時代を約 30 年そして大分県佐伯市で約 20 年を過ごしました。福岡時代はインプラント、審美歯科とある意味では派手な臨床を続けてきました。その後佐伯市に移転して完全保険医となり、歯科医療とは、誰のためにあるのかということ真剣に考えるようになりました。福岡市天神という街と、佐伯市という地方都市との生活や習慣について多くのことを勉強させていただきました。そのような環境の激変の中で、大きく変化した私の歯科医療について臨床例を交えながら発表させていただきます。

河原英雄

略歴

- 1967 年 九州歯科大学卒業
- 1968 年 福岡市にて
- 2002 年 大分県佐伯市に移転

九州大学歯学部臨床教授
台北医科大学歯学部臨床教授
奥羽大学歯学部客員教授
日本審美歯科協会会長
日本顎咬合学会会長 等歴任

医学博士

演題

リマウントとフードテストの重要性

抄録

2015年12月、河原先生の「箸の文化に適応した総義歯」セミナーに、いながき歯科当医院長と受講させて頂きました。

その後、毎日のように旧デンチャーのリマウント、新生義歯の作成を行うごとに患者様から言われていた“食べれる”ということの違いを実感いたしました。

何度調整してもリンゴ、たくわん等の硬い食べ物が食べられません。

患者様の大半が年配の方々ですので、この河原式デンチャーを取り入れたことにより、喜ばれる結果になりました。

心も体も元気にしてくれるデンチャーです。私自身も河原先生とのご縁により、技工士としてやりがいを与えていただきました。

本日は、この素晴らしい経験をお伝えできたらと思います。

吉田衛司

略歴

九州歯科技工専門学校卒業後

1986年 医療法人恵歯会入社

1991年 宗像市古屋敷歯科入社

2013年 いながき歯科入社

日本歯科技工士会会員

前歯でもかめる入れ歯指導歯科技工士

噛める！河原デンチャーでRegain energy

田中歯科クリニック 院長 成相友佳

私は河原英雄先生の『前歯でも噛める入れ歯』に出会ってから、歯科医師という仕事がとっても楽しく、大好きになりました。以前の私は、何回リベースしても咬むと落ちてきてしまう入れ歯にウンザリしたり、何度調整しても毎日のように褥瘡をつくってくる患者さんに嫌気がさしたり、そんな不甲斐ない自分にも嫌気がさしてあんなに疲れてたというのに。それは、入れ歯で噛めるようになった患者さんが皆、喜んでくださり、笑顔になり、元気になれるからです。元気になるとリハビリも頑張れるようになり、中には車椅子から立ち上がり、歩き出した方たちもいます。

噛める入れ歯から始まる、介護軽減、介護予防、そのチカラは絶大です！

今では歯科技工士、歯科衛生士のみならず、言語聴覚士、理学療法士、看護師、介護士さんも協力して下さり、一緒になって一人一人の患者さんの元気回復を目指して頑張っています。その実例をご紹介します。